

公益財団法人名勝依水園・寧楽美術館

平成31年度事業報告

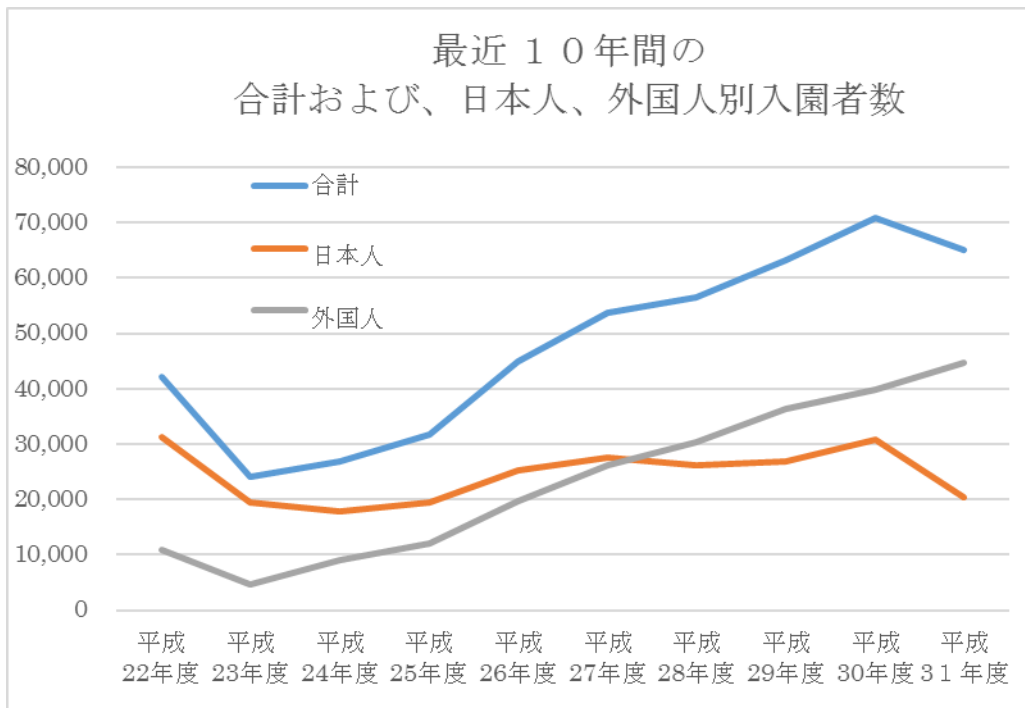
1. 公益目的事業の状況

(1) 入園者数について

庭園事業および美術館事業の最近3年間の入園者数および入園料売上は以下の表の通りである。また最近10年間の日本人、外国人別年間入園者数は図の通りである。

最近3年間の入園者数と入園料売上

		平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	対前年度 比
入園者数(人)	一般 (@900)	51,026	57,859	48,530	84 %
	大学生 (@810)	2,875	3,216	3,004	93 %
	中・高生 (@500)	2,326	2,411	2,299	95 %
	小学生 (@300)	1,168	1,251	1,326	106 %
	特別 (@500)	1,275	1,466	1,219	83 %
	団体 (@810)	4,525	4,558	8,745	192 %
	合計	63,195	70,761	65,123	92 %
	外国人 (内数)	36,288	39,894	44,676	112 %
入園料売上 (円)	53,462,140	59,707,900	55,152,000	92 %	



平成31年度は、2月から、新型コロナウイルスによる、入園者の減少は見られたが、期末直前まで、通常通り開園を続けた。しかし3月28日（金）に新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、翌日の3月29日（日）より当面の間、庭園、美術館、三秀のすべてを、閉園することを決定し、実施した。

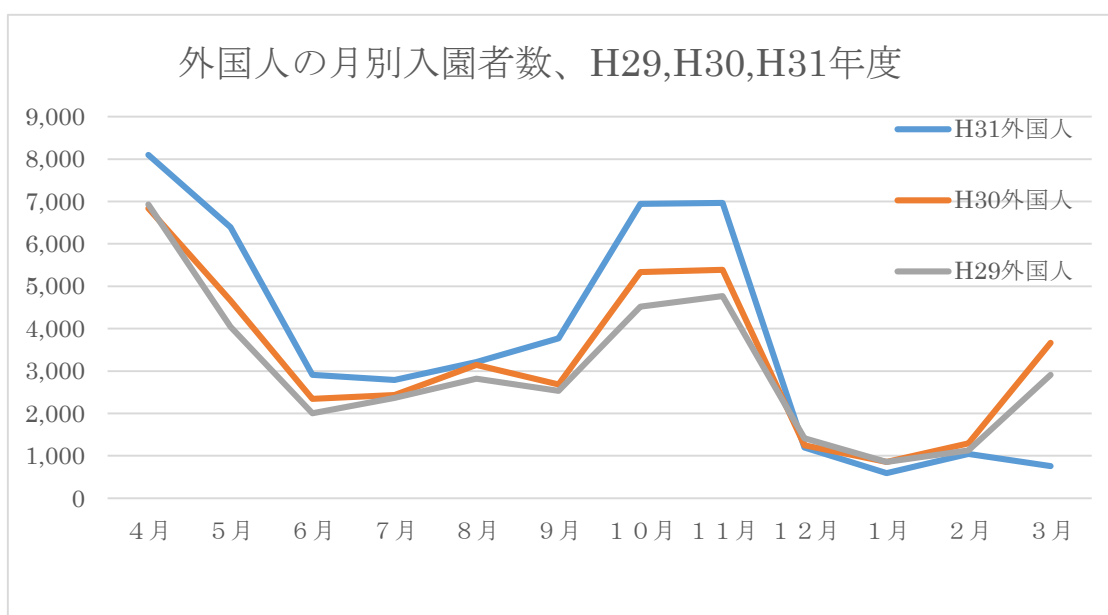
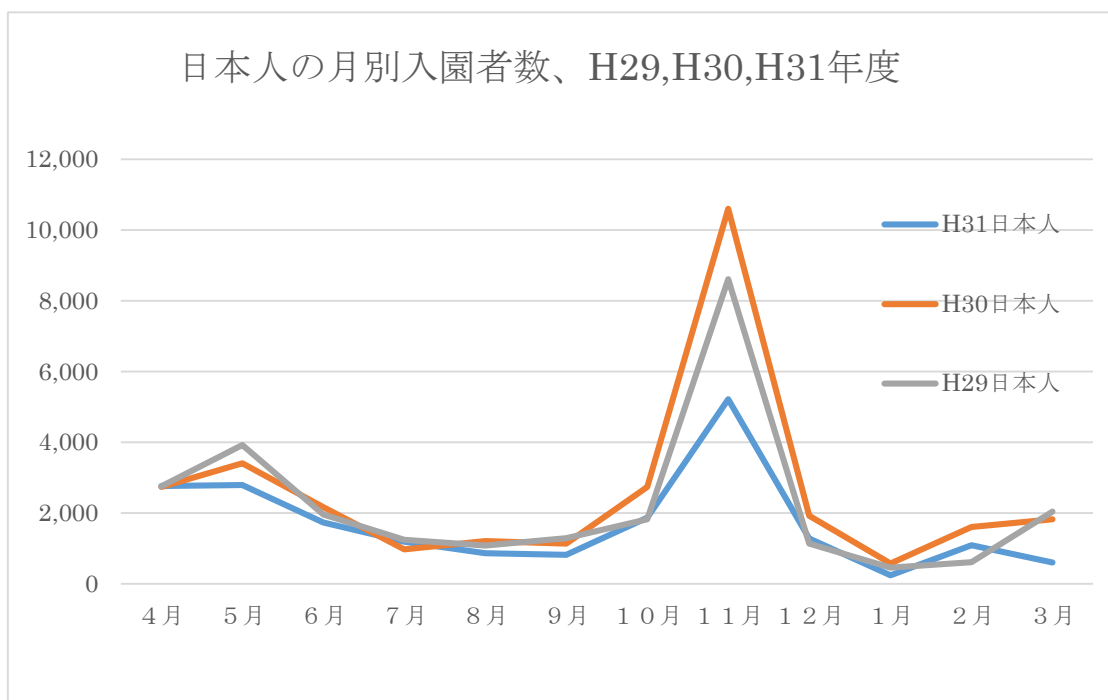
平成31年度の入園者数合計は、65,123人、前年度比で92%と、東日本大震災の影響が大きかった、平成23年度以来8年ぶりに減少した。

入園料売上も同様前年度比92%となった。

入園客数合計は、上期だけでは前年同期比111%であったのが、下期の新型コロナウイルスの影響で、年間では大きく減少した。そのうち外国人は44,676人、前年度比112%と、上記影響にもかかわらず年間では伸びているが、日本人は、前年度30,867人が、今年度20,447人となり、前年度比66%と、かつてない割合で激減した。

この結果、最近10年間の日本人、外国人別入園者数のグラフに示されるとおり、平成今年度の外国人の比率は前年度の56%から69%へと大幅に増加した。

また日本人と外国人のこの3年間の月別入園者数はそれぞれ以下の通りである。



今年度の日本人は、ほぼ毎月前年度を下回っているが、観光シーズンの5月、10月、11月を除いては前年度、前々年度と大きな差はない。しかし、前年度までは突出して入園者が多かった11月は、今年度は、前年度の10,602人が5,210人となり、49%と激減した。これは、前年度は、興福寺中金堂の落慶法要があったこと及び10月の

消費税率変更、10/12の台風19号の上陸、週末ごとの悪天候の影響が大きいと考えられる。新型コロナウイルスによる減少幅は1, 2, 3月で、1, 500人程度であり、年間への影響は8%程度である。

今年度の外国人は、4月から11月まで、大幅に前年度、前々年度を上回っていた。しかし1月から新型コロナウイルスの影響で激減したが、その減少幅は4, 000人程度と見込まれ、やはり年間への影響は8%程度である。

(2) 美術館の展示について

美術館は、以下の企画展および特別展示他を、実施した。

①企画展

上期

・平成31年4月1日(月)～令和元年9月9日(月)

テーマ：四季おりおり — 季節を愉しむ絵画と道具 —

「春・夏・秋・冬…。季節はとどまることなくめぐり、わたしたちの人生を彩ります。今展では絵画や茶道具・懐石のうつわなど、季節の風情を表現した作品をとりあわせ、一年ひとめぐりをおたのしみいただきます。」という趣旨で、「青緑山水図屏風」(与謝蕪村)、色絵秋草文菓子鉢(尾形乾山)他を展示した。

・特別陳列

・平成31年4月1日(月)～4月14日(日)

重要文化財 「亦復一楽帖」第十二図「牡丹」

田能村竹田(たのむらちくでん)筆)

下期

・令和元年10月1日(火)～令和2年2月11日(月)(予定から1日延長)

テーマ：三千年を生き延びた稀有の文字

漢字—形と美—

「文字は、人類が編み出した画期的な伝達手段です。中でも「漢字」は、三千年以上前には中国で原形が存在したとされ、変化を遂げながら現在も使用され続けている唯一の古代文字です。モノを示す絵から点と線によって次第に記号化され文字となってゆく過程、荘厳さ・書きやすさ・読みやすさ・速記性など、それぞれの時代が求めた字形の変遷をたどるとともに、その美にも注目して漢字の持つ魅力に迫ります。」という趣旨で 青銅饕餮文卣(商末～周初(紀元前11世紀)他を展示した。

・特別陳列

- ・令和元年11月1日（金）～11月14日（木）
重要文化財 「亦復一楽帖」 第十三図「梅花水仙」
田能村竹田（たのむらちくでん）筆

②依水園開園記念日特別展示

昨年同様の内容を以下の通り展示した。

日時：令和元年6月1日

場所：美術館の軒下外廊下

展示内容：依水園の歴史、関わってきた人たちの写真のパネル

③美術品の修復

鈴木其一の「椿に躑躅図屏風」（六曲一双）の絵具の剥離止め、虫食いの補修及び梶原緋佐子の「明装」の銀箔の剥離止めとカビの殺菌を行った。

④美術品の閲覧対応、データ提供

7月31日、8月1日、明治大学文学部 石川日出志氏の、印章官印 4点（「漢夷邑長」、「漢叟邑長」、「晋帰義羌王」、「犍為太守章」）の調査研究のための閲覧・写真撮影・スケッチに応じた。

令和2年4月19日開館予定（現在開館延期中）の「竹田市歴史文化館」の敷地内に、竹田市田能村竹田顕彰会が、竹田の石碑の建立を計画しており、この石碑に「亦復一楽帖」13図の中から4図を原寸大の陶板レプリカとしてはめ込みたいとの要望があり、陶板に焼き付けるためのデータを提供した。

⑤「依水園のひなまつり」の開催

昨年度の初回に引き続き今年度も「依水園のひなまつり」を令和2年2月12日（水）より3月2日（月）まで依水園母屋藤の間で開催した。「ひなまつり」のみの入園者は141人であった。（昨年度1,022人）（観覧料400円。今年度から庭園の入園者は追加料金なし（昨年度は200円）で観覧可に変更したので、単純な人数の比較はできない。）展示されたのは、依水園の前所有者である關 藤次郎が孫娘の初節句に贈った「曲水の宴」の平飾りひな人形をはじめとして、稚児雛、市松人形等で藤次郎の縁者より当財団に寄贈されたものである。

寄贈者の山崎博子氏は、昨年度は来館頂けなかったが、今年度は初めて来館され、人形と数十年ぶりの対面ができたとの言葉を頂けた。

(3) 広報宣伝、営業企画活動等について

①開園記念日

6月1日の開園記念日を割引料金とする企画を今年度も実施した。また昨年度に続き、この日に当財団敷地内茶室の三秀亭で中谷 美風煎茶美風流四世家元が煎茶席を開き、入園客に煎茶道を体験して頂くイベントを企画した。

②プレスリリース

美術館企画展、依水園開園記念日に関してプレスリリースを実施した。

③リーフレット作成

企画展に関してリーフレット（A4両面）を作成し市内観光案内所、ホテル等に配布を依頼した。

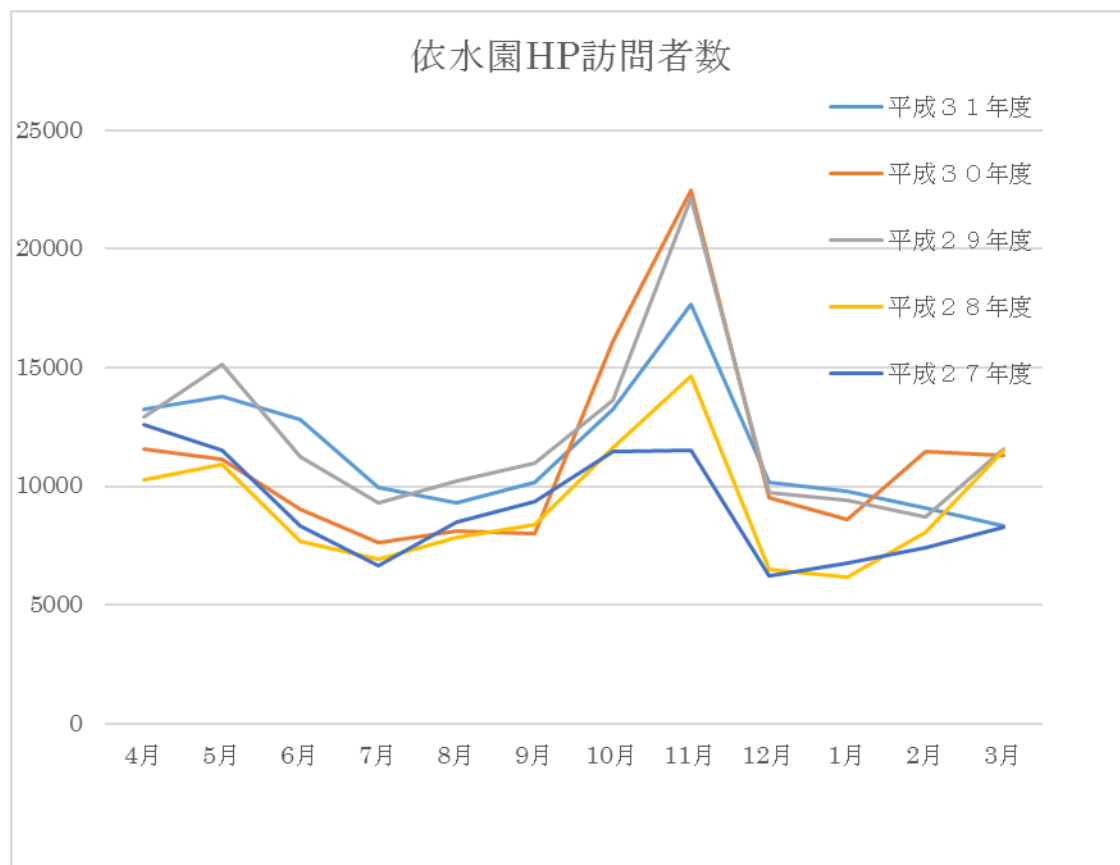
④ひな人形の紹介本「依水園のおひなさま」の発行

今年度の「依水園のひなまつり」の開催にあわせて、曲水の宴と稚児雛を紹介する「依水園のおひなさま」を発行し、依水園内での販売を開始し、今年度は353冊を販売し、49冊を関係部門等に贈呈した。発行にあたり、林 駒夫氏（重要無形文化財「桐塑人形」保持者）、林 直輝氏（日本人形文化財研究所所長）、田中正流氏（平等院ミュージアム鳳翔館学芸員）および人形寄贈者の山崎博子氏より寄稿を頂いた。（全48ページ、制作 株式会社福本事務所、翻訳 人文社会科学翻訳センター、定価1,200円、初版3,000部発行。）

⑤ホームページ

平成27年度以降の依水園 HP 訪問者数は下記グラフの通りである。毎年アクセス数は、ほぼ順調に増加してきたが、平成31年度は、入園者数と同様、11月および2、3月にアクセスが減少している。

上期のホームページの花だよりの更新は29回（前年度36回）、合計67枚の写真更新（前年度91枚）を行った。



⑥トリップアドバイザー (<https://www.tripadvisor.jp>)

令和元年5月に世界最大の旅行サイト「トリップアドバイザー」の「エクセレンス認証 2019(Certificate of Excellence)」を受賞したので、5年連続の受賞となり、Certificate of Excellence Hall of Fame (いわゆる殿堂入り)を受賞した。(星4つ半で昨年と同じ)。その証明書は、掲示板に掲示している。

令和2年6月1日現在で、旅行者のコメントでの評価は、487件中とても良い303、良い122、普通52、悪い9、とても悪い1、で平均4.5であり、昨年度とほとんど変化はない。

奈良の観光地の順位は、奈良公園、東大寺、春日大社、東大寺二月堂、奈良国立博物館、唐招提寺、興福寺、依水園、奈良県猿沢ビジターセンター&イン、若草山、となっており、依水園は8位(去年は7位)で大きな変化はない。

コメント累計の言語別は英語276、日本語87、中国語(簡)68、中国語(繁)66、フランス語32、イタリア語23、スペイン語21、他45(ドイツ語、ポルトガル語、ロシア語等)で、大きな比率は変わらない。

⑦「ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデン」のランキング

米国の日本庭園専門誌「ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデン」の2019年の国内日本庭園ランキングは、20位とさらに後退した。2010年より、41位、40位、20位、20位、6位、8位、7位、であったが2017年からは14位、18位と後退している。なお足立美術館が17年連続1位である。

⑧「奈良工芸の粋」展会場提供

奈良漆器、赤膚焼、一刀彫等の奈良工芸の発展を支援することを目的として、当園の美術館、母屋、茶室等を、一昨年度から奈良新聞社が主催する「奈良工芸の粋」展の会場として有料で貸出している。今年度も、3月12日から16日で実施の予定であったが、新型コロナウイルス対応のため、直前に主催者の奈良新聞社の判断により中止された。代わりに美術館での特別展示をせず、ギャラリー(即売)のみとしての、今秋の開催を検討中である。

⑨その他

昨年に引き続き、珠光茶会 開催期間中の2月5日(水)から2月9日(日)まで、通常は非公開の清秀庵・氷心亭の茶室見学会を実施した。(昨年と同じで3,000円。解説および入園、入館、お抹茶、お菓子付き)。

(4) 補助金事業について

今年度は、蔵と柳生堂の屋根葺き替えの補助金事業申請を行い、蔵(令和2年度)、柳生堂(令和2,3年度)の補助金事業が認められた。

(5) 文化活動について

①依水園文化講演会

- ・第21回 令和元年11月16日(土)

「文字に魅(ひ)かれて」

講師 西山佳邨(かそん)(書家)

を、開催した。

②庭園大研究会

当財団主催の事業として14年目を迎えた、庭師育成の「庭園大研究会」は講師牧岡一生氏(庭舎 MAKIOKA 代表)の講義、実習とお茶の実習による月例の講習会を約20名の受講者を対象に継続開催中である。

2. 収益事業の状況

平成31年度の収益事業のうち、飲食事業の売上、費用、損益はそれぞれ以下の通りであった。

収益(含む雑収益)	11,532千円	(前年度13,092千円)	前年度比	88%
費用	12,515千円	(前年度12,260千円)	前年度比	102%
損益	-963千円	(前年度832千円)	前年度比	-

収益(売上)は前年度の88%となった。これは主な顧客である日本人入園者が前年度比66%と激減したことで、食事及び抹茶の売上がそれぞれ90%、92%となったことが主な原因である。

費用増は人件費の単金上昇による。

物販事業は、昨年と変わらず、収益750千円、費用1,281千円で損益531千円の赤字となった。

不動産事業は、昨年度から貸家4軒がすべて空き家となり、収入は館舎分家賃のみである、従って減価償却費、固定資産税等がほぼそのまま赤字となり、損益は2,579千円の赤字となった。空き家となった貸家およびその敷地の活用方法について、継続検討中であり、今年度も特に具体化はされなかった。

3. 庶務事項

1. 組織・人員等

1) 主要事項

なし

2) 人員（令和2年3月31日 現在）

理事	6名（うち常勤2名）
監事	2名（非常勤）
評議員	6名（非常勤）
職員	24名

2. 役員会

1) 評議員会

定時評議員会（令和元年 6月24日 依水園会議室）

議題 第1号議案 平成29年度決算修正の件
第2号議案 平成30年度決算案承認の件
第3号議案 定款変更の件

報告事項 平成30年度事業報告

2) 理事会

第1回理事会（令和元年 5月 29日 依水園会議室）

議題 第1号議案 平成29年度決算修正の件
第2号議案 平成30年度事業報告書および決算案承認の件
第3号議案 定時評議員会招集の件
第4号議案 定時評議員会議案の「定款変更」の件

報告事項 1. 理事長及び館長の職務の執行状況報告議題

第2回理事会（令和元年7月8日、書面決議）

議題 （1）中村有太子氏からの寄付の受理
（2）美術館内への肖像設置廃止

第3回理事会（令和2年3月4日 依水園会議室）

議題 第1号議案 令和2年度事業計画書案および収支予算書案、並びに
資金調達および重要な設備投資の見込み承認の件
第2号議案 特定資産「美術館開館55周年名品展準備預金」積立
額等修正の件

報告事項 1. 事業報告
2. 代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況報告

以上